

【 処置 】

596 副鼻腔自然口開大処置（小児）の算定について

《令和7年6月30日》

○ 取扱い

- ① 3歳未満の小児に対するJ097-2副鼻腔自然口開大処置の算定は、原則として認められない。
- ② 3歳以上の小児に対するJ097-2副鼻腔自然口開大処置の算定は、原則として認められる。

○ 取扱いを作成した根拠等

副鼻腔自然口開大処置は、副鼻腔炎等の患者に対して、副鼻腔の換気、排液によりネブライザの治療効果を増大させる目的で実施される。副鼻腔の発達は2歳頃から始まるが、未発達の副鼻腔は鼻の中に繋がっておらず、したがって、3歳未満の小児に対する当該処置の臨床的有用性は低いと考えられる。

一方、副鼻腔の発達に伴い鼻の中と繋がると、副鼻腔炎を発症しやすくなることから、3歳以上の小児に対する有用性は高いと考えられる。

以上のことから、J097-2副鼻腔自然口開大処置の算定について、3歳未満の小児に対する算定は原則として認められず、3歳以上の小児に対する算定は原則として認められると判断した。